

大学語学教育に新しいインクルーシブの波を。

「学びのユニバーサルデザイン(UDL)」を活用し、 大学教育で多様な学生に寄り添う授業づくりに挑戦する。

大学には発達障がいや身体障がいなど多様な特性を持つ学生がおり、外国人留学生も多数在籍します。研究代表者は、一人ひとりに適した授業を提供するため「学びのユニバーサルデザイン」(UDL)を採用した実践研究に取り組んでいます。UDLは多様な学習者が共に学べる環境づくりを目指す論理的枠組みです。担当する英語科目でUDLによる授業改善を実践し、さらには小中高や他大学との連携による研究の発展を目指しています。

研究代表者

ベルガー 舞子

BERGER Maiko

立命館アジア太平洋大学
言語教育センター 准教授

「これまで多くの学生に接してきた経験から、教育環境全体をよりインクルーシブにする必要性を強く感じています」

新規性・独自性

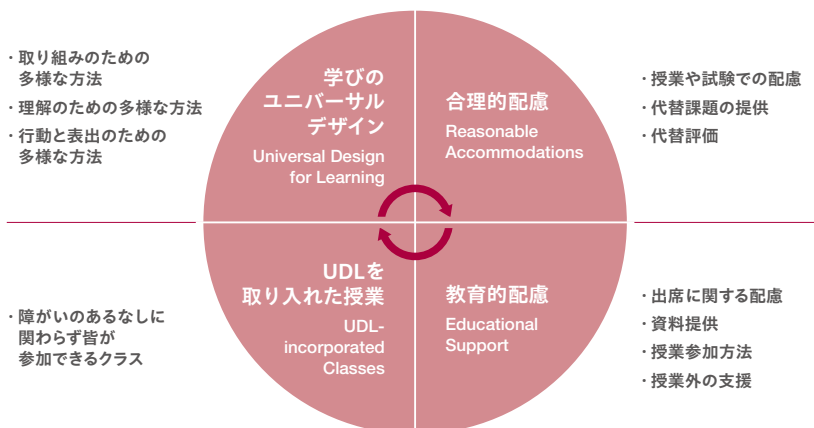
大学教育ではほとんど前例のないUDLによる語学の実践研究で、新しい道を切り開く。

APUの英語教育副主任である研究代表者は、多様な学生の相談に応じる中で、見えない困難を抱える学生の増加を実感し、学習者中心のよりよい教育を目指す思いから本研究を始めました。UDLを活用する過程では、既に実践していた方法があることに気づく一方、理論をそのまま適用しても十分でない場合にも遭遇しました。大学の語学教育においてUDLの実践研究はほぼ前例がないため、試行から得られる知

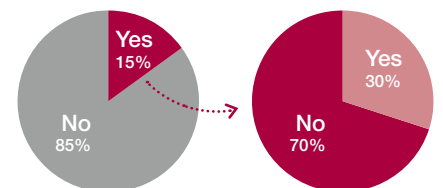
見すべてが本研究の新規性・独自性となります。

研究代表者は自律的学習者の育成、入学前教育、海外留学効果の研究など多角的な視点から語学教育に取り組み、高校英語教育との関わりや教育機関の第三者評価委員としての活動も行ってきました。これらの経験や知見と、APUの多言語・多文化環境とを生かし、多様な背景を持つ学生が共に学び合える授業づくりに取り組んでいます。

多様な学生に学びへの参加を保証する方法



大学の講義の受講に際して
何らかの困りごとを抱え、
相談できない学生の割合



大学の講義を受講する際に何か困りごとを抱えていますか。(N=65)

上記の困りごとについて、大学のオフィスや授業担当教員等に相談していますか。(N=10)

社会連携に向けて

他の教育機関との連携で実践研究を進め、高等教育のインクルーシブ教育に新しい波を。

大学におけるUDLによる語学の実践研究は、まだ始まったばかりで、今後は他の教育機関との連携が不可欠です。UDLの実践が進んでいる小・中学校との連携からは、多様な学生に寄り添う授業づくりに役立つ知見が得られます。高校との連携は高大接続の観点から重要性が増

すでしょう。また、UDLを導入した語学教育で同様の取り組みを行う大学との協働により、効果的な教育モデルの開発が可能になります。これらの研究成果は、多様化が進む日本の高等教育でのインクルーシブ教育の新たな流れとなり、重要な示唆を提供できると考えています。

